

事前評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会

平成25年10月23日(水)

研究課題	環境負荷を低減するための豚の飼料調整に関する研究	
研究期間	平成26年度～28年度	
	評価項目	平均点
	研究の背景	4.0
	研究目的の妥当性	4.2
	研究内容の合理性・新規性	3.6
	研究予算の妥当性	3.4
	目的達成の可能性	4.0
	期待される研究成果	4.2
	予備研究の状況	4.2
	総合評点	3.9

本研究は、養豚業における悪臭や窒素、重金属等の環境への排出、抗菌性添加物による薬剤耐性菌出現などの対策として、低タンパク質飼料や乳酸菌資材等によりコストと労力をかけずに環境負荷を低減する飼料調整技術の確立を目的とする。

環境問題にとって重要な課題であり背景や目的も妥当である。予備試験も十分に実施されており、新たな乳酸菌を使った成果が期待できることから目的達成の可能性が高い。また環境にやさしい養豚経営や銘柄豚肉の生産拡大に向けて実用的な成果が期待でき、普及効果も大きいと思われる。

研究の実施にあたっては、飼料を与える段階と排出された糞の段階で微生物相や菌数を測定し定量的な関連性を明確にするともに、なぜ糞の臭気が減少するのかを解明していくことが重要である。併せて実用化に向けた乳酸菌とプレミックスの飼料作成条件についても検討する必要がある。

また糞の臭いについては硫黄成分を中心に分析することが重要である。環境負荷が低減されても豚の生育や肉質が悪くなるとは意味がないので最終的には豚肉の味の官能試験も必要である。重要な課題であるので研究期間内に成果を出してほしい。